

《Lesson 6》 補語 (C) として使われる that

補語 (C)として使われる that は、主に SVC の文で使われ、基本の形は「主語 + be 動詞 + that + 文」となります。詳しく見ていきましょう。

- (1) 主に SVC の文で使われる。
- (2) 基本の形は「主語 + be動詞 + that + 文」。
＜例＞ 「問題は、彼が泳げないということです」
→ The problem is that he cannot play the guitar.
- (3) 今回も that を省略することができる。

【補語 (C) として使われる that の文 : 基本の形】

主語 + be動詞 (+ that) + 文

(主語は「文」ということです)

＜例＞ The problem is (that) he cannot play the guitar.

(問題は、彼がギターを弾けないということです)

The truth is (that) he was lying.

(真実は、彼が嘘をついていたということです)

《その他の例》 The promise is that ～ . (約束は、～ということです)

One of her ideas is that ～ . (彼女のアイデアの1 つは、～というものです)

Our *advantage is that ～ . (私たちの有利な点は、～ということです)

*advantage = 有利な点 / アドバンテージ

ポイント! 主語には the や「所有格」がつくことが多い

ここでは、主語に the や my / your といった「所有格」がつくことが多い。その理由は、主語が「1 つしかないもの・こと」であったり「一個人のもの・こと」であったり、限定されていることが多いため。

＜例＞ **The** truth is (that) he was lying. (真実は、彼が嘘をついていたということです)

→ 真実は 1 つしかないので **the** truth となる

My idea is (that) we go there by train. (私のアイデアは、私たちはそこまで電車で行くことです)

→ 「他の人の意見は違うけど、自分の意見はこう」と言う時に使う形

【補語 (C) として使われる that の文：作り方】

ステップ①：文を「主語」と「それ以外」に分け、「主語」を「主語 + be 動詞」に、「それ以外」を「that + 文」の形にする。

ステップ②：「主語 + be 動詞」の後に「that + 文」を足す。

<例1> 「問題は、彼がギターを弾けないということです」

ステップ①：文を「主語」と「それ以外」に分け、「主語」を「主語 + be 動詞」に、「それ以外」を「that + 文」の形にする。

主語 + be動詞：「問題は」

= the problem is

that + 文：「彼がギターを弾けないということ」

= (that) he cannot play the guitar

ステップ②：「主語 + be動詞」の後に「that + 文」を足す。

The problem is (that) he cannot play the guitar.

<例2> 「真実は、彼が嘘をついていたということです」

ステップ①：文を「主語」と「それ以外」に分け、「主語」を「主語 + be 動詞」に、「それ以外」を「that + 文」の形にする。

主語 + be動詞：「真実は」

= the truth is

that + 文：「彼が嘘をついていたということ」

= (that) he was lying

ステップ②：「主語 + be動詞」の後に「that + 文」を足す。

The truth is (that) he was lying.

補語 (C) として使われる“that”の文が「否定文」や「疑問文」に入る時も、基本的には文の種類 (be 動詞の文、一般動詞の文、助動詞の文など) のルールをそのまま使います。

〈否定文〉 The problem is not (that) she cannot speak English.

(彼女が英語を話せないことが問題なのではありません)

〈疑問文〉 Is the problem (that) she cannot speak English?

(問題は、彼女が英語を話せないことですか)